

事業者向け

2018年度放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	8	7	0	・スペースは基準に合っていて学習支援に支障はないが、体を動かす活動には狭さを感じる。
	2	職員の配置数は適切であるか	15	0	0	・環境的条件は恵まれていないが、階段に手すりを付けるなど事業所としてできる範囲の改善をしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	1	11	3	・子ども二人に支援員1人の体制を整え、サービスの向上に努めている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	11	3	1	全職員対象に放課後等デイサービスガイドラインの研修を実施した。自己評価表を基に事業所の自己評価を行った。今後、以下の業務改善に努めたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	13	2	0	①業務改善の目標を設定して全職員で改善に取り組み、評価をもとに次の目標を設定するPDCAサイクルを確立していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	12	2	1	②第三者に依頼し、外部評価を行う。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	4	3	8	③保護者向け評価表によるアンケート調査の結果を保護者にフィードバックし、要望に応えた業務改善を進める。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	15	0	0	④職員個々人の研修機会を確保するとともに、研修報告をファイリングしている。職場研修会を持って障害の理解と教材開発に努める。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	13	2	0	・こども発達支援センターや病院など専門機関による検査結果を保護者から提供していただき、個々の子どもについて理解を深めるようにしている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5	7	3	・標準化されたアセスメントツールについて知見を広げ、こどもの実態に相応しいツールを使用して、子どもと保護者の課題を把握したい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	12	3	0	・全体学習、個別学習等の時間割は固定しているが、活動内容は毎日変化している。季節や年中行事、子どもたちの興味関心、個々の子どもの学習課題に応じて計画し、創意工夫してきている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	15	0	0	・子どもたちの長期休み中は支援時間を伸ばし、季節に応じた活動内容で全体学習を行うようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	12	3	0	・活動前に職員会議で全体学習の進め方と役割分担について打ち合わせ、個別学習も職員間で相談し合って進めている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	15	0	0	・支援終了後には、その日の子どもの様子を職員間で報告し合い、次の支援に生かすようにしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	14	1	0	・支援終了後には日報の他に子ども一人一人の個人記録を付け、支援の検証と改善につなげている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	13	2	0	・年に2回子どもと保護者からモニタリングを取り、支援内容を検証し、支援の改善につなげている。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	15	0	0		

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	14	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学習(学習支援)は自立支援と日常生活の充実につながる。全体学習には創作活動を取り入れている。自由遊びは余暇の利用につながる。地域交流活動はしていない。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	11	4	0	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	13	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議には子どもの担当者が出席するようにしている。2018年度は同会議がなかった。 ・通所支援は行っていない。学校の行事予定、下校時刻等は保護者を通して情報を得ている。 ・医療ケアの必要な子はいない。 ・就学前の事業所との情報共有は今後の課題と考えている。 ・卒業生のケースによって必要な場合は障害福祉事業所等と連絡を取っていききたい。 ・子どもの発達支援センターには、当事業所職員研修会に職員を招いて講演していただいたことがある。それ以後、難しいケースについて相談に乗っていただいている。 ・地域交流に関連する活動としては、掲示板への毎月作品展示、練馬区障害者フェスティバルへの出展などを行っている。 ・練馬区障害者福祉サービス事業者連絡会の研修会、同児童系サービス分科会に出席し、事業所間の交流、情報交換に努めている。 ・保護者とは子どもの送り迎えの折に、その日の子どもの状況を伝えあっている。また、年2回の個別支援計画保護者面談では、子どもの発達状況や今後の課題について話し合い、共通理解を持つようになっている。 ・ケースに応じて保護者にアドバイスしている。両親あるいは父親と面談することもある。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	7	8	0	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	5	9	1	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	5	4	6	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	4	8	3	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	12	3	0	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	5	9	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	12	2	1	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	15	0	0	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	5	7	3	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	13	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・運営規定、利用者負担については入所面接の折に保護者に説明している。支援内容については、保護者面談の際に話し合っている。 ・保護者からの子育ての相談については、保護者面談の他、保護者の要望のあったときには随時行っている。 ・当事業所として、保護者に呼び掛けて月1回「井戸端会議」(なんでも話せる場)を設けている。出席する保護者は少ない。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	14	1	0	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	10	4	1	

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	14	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者の苦情に対応する体制はできている。今年度は対応すべきケースはなかった。 ・活動の様子はホームページに載せているが、このところ更新していないので改善したい。 ・職員には退職後も含めて子どもの個人情報情報を漏らさないように徹底している。 ・連絡事項があるときはその都度プリントでお知らせしている。保護者の状況によって伝わりにくい場合は、対応方法を工夫している。 ・近隣施設から招かれたときには、職員が訪問している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	5	15	0	
	35	個人情報に十分注意しているか	15	0	0	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	14	1	0	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	4	6	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	9	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・諸マニュアルの策定を今後策定していきたい。都からの感染症に関する通知などは掲示して職員に徹底している。 ・避難訓練は年に2回行っている。 ・事業所内で全職員対象に虐待防止研修を行った。今後も継続して行う。 ・あらかじめ身体拘束の可能性が予測できる子どもはいない。支援中に身体拘束の必要な事態が発生した場合は、虐待防止マニュアルに沿って対応する。 ・食物アレルギーのある子どもについては、保護者から情報を聞いて徹底している。 ・ヒヤリハット事例をファイルし、事業所内で閲覧できるようにし、事故防止に努めている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	9	5	1	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	9	6	0	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	5	5	5	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	9	4	2	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5	6	4	

特定非営利活動法人
かめの子教室